

1 学校として目指す授業

「個別最適化された学び」の実現を図り、児童の学力の定着を図る。～ICT機器の活用と小学校教科担任制の趣旨を生かした、児童の意欲を引き出す授業～

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
国語、算数共に、全体的に全国平均・都平均を大きく上回っている。特に、国語「思考力・判断力・表現力等」についての問題では、全国平均を10%以上上回っている。また、算数は、「知識・技能」「思考・判断・表現」共に全国平均を5%以上上回っている。反対に、国語「知識・技能」についての問題では、5%程度下回っている上に、23%の児童が無回答の問題もあり、言語に関する理解に課題が見られる。	・将来なりたい姿や友達との関係性についての質問に対して概ね肯定的な意見であることから、学校生活を落ち着いて過ごすことができていることが分かる。 ・「失敗を恐れなくて挑戦する。」「自分の思いを言葉で表す。」のような質問では、25%程度の児童が否定的に答えていたため、自信をもって交流をすることが苦手な児童が多く、手立てを講じる必要があると思われる。

(2) その他の資料を活用した分析

活用した資料名	分析結果
・教科に関するアンケート ・ワークシート等 ・ワークテスト ・体力テスト	・教科に関する興味関心は高く、楽しく授業を受けている。しかし、適用問題やワークテストの結果にはなかなか反映されず、知識の定着に結び付いていないことが分かる。 ・体力テストの合計得点はおおむね東京都平均より高いか、ほぼ等しい結果となっている。測定種目の中では反復横跳びを苦手としている児童が多いということが分かる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・学力の差が大きく、支援を要する児童がいるため、サポート教室支援員や学生ボランティアによる個別指導をより一層充実させる。
- ・基礎基本の学力（四則計算、漢字）が定着していない児童がいるため、算数補習教室やタブレットパソコンのeライブラリ等による反復学習によって確実に定着を目指す。
- ・C評価の児童の学力の底上げが必要である。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

ICT機器を活用して個別最適化を図る指導法の工夫

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価	
低学年	・詩や早口言葉などの文章を音読する活動を意図的に取り入れる。 ・学びポケットのドリルを活用してカタカナなど文字の定着を図る。				・児童の学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した教材提示を行い、共有や習熟の場面でもタブレット端末の機能を活用する。				・季節探して見つけたものを写真や動画に撮り、友達と共有をする。 ・生き物や植物の成長記録として写真や動画で残しておき、発表や友達との共有を行う。		・録画・録音機能を使って演奏の振り返り、比較、聴取をする。		・カメラ機能を活用し、表したいものを撮影して集める。				・映像や演示などによる手本を示し、達成のための練習方法を知らせる。また、思いを伝え合うことで、上達のための様々な方法があること学ぶ。 ・タブレット等による振り返りの時間も設定するが、一定の運動量も確保し体力の向上を目指す。					・挿絵をPDF化し、映像として流す。	
中学年	・短作文や漢字5問テストなどの書く活動を意図的に取り入れる。		・タブレット等を利用して可視化された資料提示を行う。 ・本時の課題を明らかにし、その解決に向けた調べ学習を行い、授業の終末で、課題に対する答えを自分の言葉で書かせることによって、思考力・表現力を高める。		・児童の学習意欲を向上させるために、タブレット端末を用いたゲーム活動等を行い、習熟の場面でもオンラインコンテンツを活用する。		・単元の終わりには、復習プリントを用いて知識の定着を図る。 ・学びポケットのドリルを活用して振り返りを行う。				・スカイメニューやチームズを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・インターネット検索機能を活用し、表したいものを調べる。				・映像などによる手本を示し、達成のための練習方法を自分で選択させる。また、話し合いによる意見交換の場を作り、上達のための様々な方法があること学ばせる。 ・タブレット等による振り返りの時間も設定するが一定の運動量も確保し体力の向上を目指す。				・挿絵をPDF化し、映像として流す。 ・今日の振り返りを学びポケットでさせる。 ・スカイメニュークラウドで心情変化をマークさせる。		
高学年	・意見文や漢字10問テストなどの書く活動を意図的に取り入れる。		・学習課題に対して、その解決のために必要な資料を自ら選択し、自分の言葉で表現できるようにする。学習の定着を図るために学びポケット等を活用してオンラインで定期的に復習し、定着を図る。		・児童の学習意欲を向上させるために、タブレット端末を用いたゲーム活動等を行い、問題・資料の提示や習熟の場面でもタブレット端末の機能を活用する。		・全員が目的をはっきりとさせた上で実験に臨み、技能だけでなく知識としての定着を図る。 ・学びポケットのドリルを活用して振り返りを行う。				・スカイメニューやチームズを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・「チームズ」の投稿機能を活用して情報交換したり、画像編集ソフトを活用してデジタル作品をつくらしたりする。		・調べ学習や動画・資料配布など学習内容に応じて効果的に使い分けて活用する。		・手本や達成課題を明示し、その課題に対して個々の練習方法や意識ポイントを考えさせる。できる限り考えたり話し合ったりする時間を設け、思考しながら実践する機会を大切に。 ・タブレット等による振り返りの時間も設定するが一定の運動量も確保し体力の向上を目指す。			・教科書のデジタル教材を活用し、英語を聞いて話す活動を多く取り入れる。		・挿絵をスライドショーで見せる。 ・デジタル教科書で動画を流す。 ・teams等を使って考えを共有する。	